

東京都退職校長会

# 会報



発行所 東京都退職校長会  
 発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 鈴木日退連共同ビル5F  
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://totaikou.jp/>

謹んで新春のお慶びを申し上げます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

■「十年ひと昔」とは

「十年ひと昔」とよく言う。この時代感覚は今では通用しない。世の移り変わりが激しすぎるからだ。2019年のある調査では、32.6%の人々が「五年ひと昔」と答えている。このスピード感覚は凄いで、世相の激動に半年前が私には遠い昔に感ずるのだが…。問題は、我々がこの感覚に如何に同化・同調できる



時代を見据えた、スピード感ある業務の  
 伸展を願う。――未来に革新と奮闘努力を求めて――  
 東京都退職校長会会長 多田 丈夫

かだ。少し前、電車の中でスマホと睨めっこしている光景が奇異に感じられたものだが、今では自分もスマホと戯れている。魔訶不思議な感覚である。

さて、この変化と情報化の中で我々も追いつけ追い越せと組織の機能化を急いだ。幾つものZOOM会議が物語る。コロナ感染拡大の中、豊かな日常を取り戻すにはまだまだ時間がかかる。焦ることもなからうが、十年一日であつてはならない。

■革新を求めた「答申」

8年前になる。平成27年9月「業務改善基金検討委員会」を設置。会則を含む業務の改善や会員減少に伴う支部組織の在り方、基金と今後の用途とその他、緊急を要する事項の4項目を諮問した。革新と奮闘努力を求めた先見性ある「答申」を受けて、平成30年に「会則の全面改正」を断行した。延べ18回の委員会とその後32回に及ぶ「作業部会」での真剣な議論が懐かしい。(本年は、本会が70年目に向けた事業を具体化

未来に革新と奮闘努力を求めて――

する年である。特に、会員数に見合った事業組織や内容等を検証し、改善を図る」と答申は先を読む。今、時間が過ぎると共に、「会則の重み」の薄らぐことを危惧している。「答申」を根拠とした「会則」を盤石に、いつまでも後輩の求める存在感ある組織でありたい。

■「協賛金計画」に期待

今や本会の財政の健全化、安定化、継続化は急務である。本部は組織の持続的財源づくりにと、70周年記念式典をキッカケに「協賛金計画」を

提案した。周到な準備の下、今、小さな組織の大きな善意」という新たな価値観(文化)が組織内に生まれようとしている。関係団体はもとより、会員をも視野に内外の賛同者に働きかけ、大胆にして画期的な動きを始めている。劇的な変化は求めないものの、この提案は10年この方、看過できない会員の減少傾向に対し、鋭くベクトルを変え、希望を未来に託す新たな取り組みでもある。

心が一つになればこのプランは、必ずや我々の財政立て直しと未来に繋ぐ記念式典の成功へと導く。(歳月人を待たず)という。内実、夢物語であつてはならないと自問しつつ、生命を賭して、関係団体や会員の皆様の理解と共感を心から求めたい。もうすぐ、東風が春を呼ぶ。

主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
- P2 第五十一回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会 埼玉大会
- P3 第二回会員研修会報告
- P4 秋の叙勲受章会員、高齢者叙勲受章会員
- P5 支部だより
- P6 新入会員の声
- P7 コラム 創立70周年に向けて
- P8 物故者、応募コーナー、編集後記

**全国連合退職校長会  
第五十一回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会**

**埼玉大会 令和四年十月二十七日～二十八日**

令和四年度全国連合退職校長会・第五十一回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会・埼玉大会が、去る十月二十七日（木）と二十八日（金）の二日間、深谷市の埼玉グランドホテル深谷を会場に開催された。

関東地区一都九県から計五十名の参加があった。

東京からは、多田丈夫会長、桐谷澄男副会長、岩谷榮子事務局長が参加した。

午後二時に開会式は始まり、開催県の埼玉県の石田孝作会長の歓迎の挨拶、続いて埼玉県教育局市町村支援部石井宏明部長、深谷市小柳光春教育長、全国連合退職校長会川井仁事務局長（入子祐三会長代理）の皆様から心の籠った挨拶があった。

以下、「研究協議」の項のみについて述べる。



発表する桐谷澄男副会長

あらかじめ協議議題の趣旨説明があった。

【協議題】「今、退職校長会に求められていることは何か、存在感を高める組織的活動への取組みーコロナ禍を乗り越切り、デジタル化に対応し、会員相互の理解と絆の深まりを目指してー」であった。

【協議題設定の理由】近年、年金受給年齢の引き上げ、六十歳定年制の年齢引き上げ、それに伴う六十四歳までの無年金により再雇用の期間が延長され、こ

れまでのように「六十歳で定年退職すれば退職校長会へ入会する」といった流れも大きく変わってきた。

さらに、社会環境においても、オンライン会議の実施、確定申告のスマホによる資料提出、最近ではワクチン接種券のデジタル化も検討される等、社会のデジタル化は今後更に進むと考えられる。…中略…

そこで、今後の会員構成の変化を踏まえ、これまでの取組みのよさも生かしつつ、情報伝達手段、方法、更には、退職校長会の組織の在り方、デジタル化への対応等、諸課題に対応する必要がある。



多田丈夫会長と岩谷榮子事務局長

【各県報告概要】一都九県とも、会員の減少がみられる。各県の報告をうかがっていると、都と同様に悩みと危機感が伝わってきた。

以下は東京都のデジタル化に関する報告の概略である。

地教委・都教委と校長とのデジタルによる業務連絡や統計調査等について、再任用制度実施以降の若い校長には、さほどアレギーはないと思える。

東京都退職校長会でも会長のリーダーシップのもと、三者会（会長・総務部担当副会長・事務局長）、正副会長会、運営委員会、七十周年式典本部会議などは、もっぱらZOOMによる会議で行っている。また、部会やブロック長会でも実施が増えている。

また、事務局長は、支部長（会）との連絡や通知等を含め、大方メールで済ませている。  
（文責 発表者 桐谷澄男）

第二回会員研修会報告

いきいき人生を目指して「ちぎり絵を楽しもう」  
―色紙やハガキに「からすうりの実」を―

一 日時

令和四年十一月十八日（金）

午後一時三十分～四時

二 会場

退職校長会事務局（湯島）

三 講師

米本雅子氏（東京都退職校長  
会荒川支部副支部長）

四 趣旨

ちぎり絵づくりを行うことによつて、心身の健康保持と増進、豊かな人生を歩む糧とする。

五 ちぎり絵とは（講師談）

ちぎり絵とは手すき和紙を使った作品づくりです。ハサミで切らずに手で和紙をちぎり、のりで貼りつけるだけです。対象物の形、大きさのバランスや

色あいをよく見て、考え、工夫し、指を動かすので脳トレにもよいのでは。また、絵を描くのととは違った視点で人生を豊かに掘げてくれるのではないのでしょうか。



講師（右端）

六 ちぎり絵作成

茶封筒に入った、きれいに染められた和紙が配られた。各々がその和紙を机上に広げ、「か



会場風景

らすうりの実」の作成に必要な和紙を選び、作り始める。早速作り始める人、慎重に色紙を選ぶ人など様々だ。作り始めも見本をじっくり眺めて作る人や、自分のペースで取り掛かる人もいて個性が感じられた。日常、和紙を手でちぎることは少ないので新鮮だった。

作成中に、講師の先生が一人ひとりのところへ来られて、丁寧にアドバイスをしてくださった。

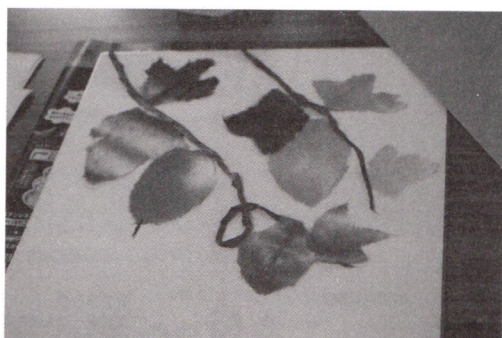
「色あいの良さ」「形の良さ」「配置のよさ」など、細かい所

を実に丁寧に見てくださり、励みになった。

作成中は、皆さん集中して声も出ないほどだった。

徐々に完成が近くなり、私は他の人の作品が気になって、見せて頂いたが、素晴らしい作品ができ上がってきた。実は、私の作品作りは全然進まず、宿題になってしまった。

それにしても、楽しい研修会になった。



参加者の作品

（生涯学習部 川和 誠二）

### 令和4年 秋の叙勲受章会員

栄えの受章お祝い申し上げます。(敬称略)

瑞宝小綬章 (3名)

嶋田 利郎 (練馬)

新倉 孝之 (町田)

露木 昌仙 (北多摩北部)

瑞宝双光章 (9名)

齊藤美代子 (新宿)

福田 睦男 (板橋)

菅野 俊子 (葛飾)

入田 康可 (日南)

高田 賢 (北多摩北部)

藤平 咲雄 (北多摩北部)

四十九院公洋 (千葉西部)

池田久美子 (埼玉県)

長谷川君子 (神奈川県)

(福利厚生部長 増田 稔)

### 高齢者叙勲受章会員

栄えの受章お祝い申し上げます。(敬称略)

(令和4年10月10日現在 本部に届けがあった方々)

瑞宝双光章 (2名)

坂本 秀雄 (足立)

高田 彰 (日南)

(福利厚生部長 増田 稔)

# 保障が充実。 なのに、ムダがない アフラックの医療保険。

ライフステージの変化に合わせて、  
その時々で必要な保障を変えられるため、  
ムダなく最適な保障を備えていただけます。



**No.1** がん保険  
医療保険  
保有契約件数  
令和元年版 インシュアランス生命保険統計号  
約4世帯に1世帯がアフラックの保険に加入  
(詳細はホームページをご確認ください)



〈募集代理店〉(アフラックは代理店制度を採用しています)

**三井住友トラスト・ライフパートナーズ株式会社**

☎ 0120-357-212 FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

◎商品の詳細は「パンフレット」「契約概要」などをご確認ください。

〈引受保険会社〉 「生きる」を創る。



**アフラック**  
東京第一法人営業部  
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1  
新宿三井ビル19階  
Tel.03-3344-1446

AFツール-2020-0347-2101001 10月22日

# 支部だより

来年こそ！

渋谷支部長 大沼 弘

支部総会には、区長はじめご来賓の方々のご臨席をいただいております。そして区長からは、今の教育行政の現状とともに今後の方針と展望のお話をいただいております。

今年度の総会は、コロナ禍中でしたので、会員だけで開催しました。残念ながら、区長からのお話をお聞きすることができませんでした。きっと、『渋谷区新しい学校づくり整備方針』学校施設の未来像と建て替えロードマップ』のお話をされたことでしょう。

会員にとっては関心事です。区の広報等で知ることはできませんが、区長から直に話を聞くのとは違いがあります。来年こそ！直にお聞きしたいものです。来年こそ！区長をはじめご来賓の方々をお迎えした総会の開催ができればと念じております。

# 新たな道を探る

調布支部長 榎本 勉

支部総会は初夏に行いました。大変残念でしたが、コロナ禍を考慮し、ご来賓の方々をお迎えすることは避けました。

令和5年は本会の創立70周年記念式典の会場は、調布市文化会館の「たづくり」です。

令和3年12月に多田会長、桐谷副会長、宇津木記念式典委員長、当時の鈴木調布支部長と庶務担当の榎本も一緒に長友貴樹市長、大和田正治教育長のお二人にご挨拶に伺いました。総会でお会いする以上に本会や調布支部についてのご理解がいただけたのではないかと思います。

さて、調布支部の喫緊の課題は会員の減少です。ただ、海外の学校に校長として赴任している会員、まだ仕事を続けている会員、住居は他地区ですが、勤務地の調布に所属した会員がいます。協力し合い、新たな道を探っていきます。



## ご希望のご予算に合わせてお葬式が執り行えます

東京都退職校長会会員の皆様へ

東京都民互助会は、東京都退職校長会 会員福利厚生の一環として昭和51年4月より団体契約によるお葬式サービスを提供しております。会員ご本人様はもとより、ご家族ご親戚の方々もご利用いただけます。

365日24時間 いつでも 迅速対応



0120-849-544

直葬・家族葬はもちろん ご弔問の多いお葬式まで承ります

Well Life ウェルライフグループ

東京都民互助会 平安祭典

ホームページ



本社:東京都杉並区上荻3-15-17 営業本部:東京都練馬区北町5-18-15 3階 TEL03-3396-7231

### 新入会員の声

#### コロナ禍を生きる生徒たちと

大田支部 柳 敏子

令和三年度末に退職し、退職校長会に入会させていただきました。現在は再任用校長として大田区立雪谷中学校で勤務しております。

私が現在最も課題と感じることは、コロナ禍により、生徒たちが明るい未来をイメージしにくくなっているということです。

困難な時代だなど感じますが、山あり谷あり、長く教員生活を送ってきた者が、どっしり構え生徒たちに多面的なものの方を示していくことが、これまで以上に大切になってくるのではないかと考えております。

諸先輩方、同僚の皆様から学ばせていただいたことを生かし、もう少し子どもたちと、この時代を、頑張って生きていこうと思います。

今後ともよろしく願っています。

### 特殊教育から特別支援教育へ

足立支部 篠崎 友誓

初めまして、篠崎と申します。今年度、定年退職し、すぐにお仲間に入れていただきました。どうぞよろしく願っています。

私は37年間の教職人生を歩ませて頂きました。着任は、養護学校。採用試験は中学校の理科。教員として何をしたら良いかも分からず子どもの前に立つたことを鮮明に覚えています。

平成18年に養護学校は特別支援学校に変わり、日本は特別支援教育を進めて行くための教育改革をします。その後、障害者の権利及び尊厳を保護し、促進するための国際条約である障害者権利条約に署名。インクルーシブ教育を目指した改革が動き始めました。障害を有する子ども達への優しい教育が更に前進しました。その歴史の中にいたことに感謝し、これからは、皆様と共に若者への人材育成に役に立ちたいと思います。



(公社)東京都  
教職員互助会

# 三楽病院

どなたでも  
ご利用  
いただけます

---

#### 三楽病院

診	消化器内科	循環器内科	糖尿病・代謝内科
療	呼吸器内科	小児科	精神(神経)科 <sup>※1</sup> 外科
科	消化器外科	脳神経外科 <sup>※2</sup>	整形外科 皮膚科
目	泌尿器科	産婦人科	眼科 耳鼻咽喉科

※糖尿病・高血圧・脂質異常症(高脂血症)を中心とした生活習慣病などの診療は、生活習慣病クリニックで行っています。クリニック診療体制表については、ホームページまたはお電話にてご確認ください。

電話予約センター **03-5282-1489**

予約がなくても受診いただけます。※1 精神(神経)科の初診を除く  
※2 火・水曜午前(完全予約制)

	月	火	水	木	金	土 (第2・4)
午前	全科 <sup>※</sup> <small>※脳神経外科は火・水(完全予約制)、小児科は第2・4土曜</small>					
午後	全科 <sup>※1</sup>	各科予約専門外来等 <sup>※2</sup>		全科 <sup>※1</sup>	外科 消化器外科	

※1 小児科、脳神経外科を除く  
※2 小児科の午後診療は毎月第2水曜のみ(令和5年2月より)  
★コロナの影響により金曜の夜間診療は令和4年12月現在休止中  
【休診日】日曜、祝日、第1・3・5土曜日、年末年始

---

#### 人間ドック

◇月曜日～土曜日実施しております。  
土曜日に限って第2・4土曜日は男性、女性とも実施しております。  
(第1・3・5土曜日は女性専用日となります。)

◇上部内視鏡検査(胃部・食道・十二指腸)は、鎮静剤を使用して実施することも可能です。1日の実施人数に限りがございますので予約時にご確認をお願いいたします。

◇新たにオプション検査を追加いたしました。ご利用お待ちしております。(詳細は人間ドックHPをご覧ください。)

人間ドック予約専用ダイヤル **TEL: 03-5282-8331**  
**FAX: 03-3291-6348**

Web予約も可能です。詳しくは人間ドックHPをご覧ください。  
人間ドックHP (<https://www.sanraku.or.jp/depart/dock>)



交通機関のご案内  
JR中央・総武線 御茶ノ水駅  
御茶ノ水橋より徒歩3分  
地下鉄(東京メトロ丸ノ内線) 御茶ノ水駅より徒歩4分  
地下鉄(東京メトロ千代田線) 新御茶ノ水駅より徒歩5分

当院はJR中央線・総武線・東京メトロ丸ノ内線・千代田線の駅から近く、通院しやすい好環境に立地しています。

---

(公社)東京都教職員互助会 三楽病院

東京都千代田区神田駿河台2-5 TEL (03) 3292-3981 (代表)

コラム 創立70周年に向けて

心を一つに繋ごう未来へ

記念式典委員会  
委員長 宇津木順一

表題は、本会70周年記念式典を迎えるのスローガンです。

70周年のテーマ「組織の意思を未来に繋げ 皆で祝う70周年」のもと、スローガンを「心を一つに繋ごう未来へ」と掲げさせていただきました。会員の皆様にはこのスローガンを言葉にし、声に出していただいで、本会70年の歩みを振り返りながら、これからの本会の進展について思いを馳せていただきたいと思います。

今、記念式典委員会では、令和五年五月十六日の70周年記念式典へ向けて精力的に準備を進めています。今回、特に新たな形を加えての式典を目指しています。

一つは、この十年間に逝去された会員に対しての追悼です。「追悼の儀」として、式典開式前に出席者全員で追悼し、東京都の教育と本会でのご貢献、ご尽力に敬意と感謝を申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

二つは、式典次第の中に「東京都退職校長会十年の歩み」を加えました。記念式典挙行の趣旨は、本会の活動を支えて来られた先達の皆様への感謝とともに、本会の新たな時代へ向けての展望を共有することであると考えます。この十年間の本会の活動を会員皆様でたどり、確認して、本式典を契機に本会の新たな活動へ向けての第一歩になるよう願っています。

三つは、記念講演です。今までは祝賀会を行ってききましたが、コロナ禍の中での開催でもあり、記念講演で70周年を祝うことにいたしました。演題は「一中節 伝統が創る未来 演奏とお話」、講師は、一中節宗家十二世 都一中氏（三味線）、一中節都派家元 都了中氏（浄瑠璃）の両氏です。

多くの先輩の英知と努力、大変なご苦勞の下、今日の本会の活動があることを70周年を機に会員一同で確認し、これからの本会の発展のため共に進んで行く決意を共有したいと存じます。

多くの先輩の英知と努力、大変なご苦勞の下、今日の本会の活動があることを70周年を機に会員一同で確認し、これからの本会の発展のため共に進んで行く決意を共有したいと存じます。

貴重なレガシーを次代に

記念誌作成委員会  
委員長 伊地敦子

本会報の原稿依頼のあった秋たけなわの候、雲ひとつない青空でしたが、依然としてコロナとの戦いが続いています。

まずは、この度の記念誌へのご寄稿に、心からお礼申し上げます。意欲漲る工夫を重ねた玉稿が、次々に寄せられています。ありがとうございます。

コロナ禍で組織を動かすことに腐心され、奮闘される姿に頭が下がり胸が熱くなりました。

本会を支え築き上げた貴重なレガシー（歴史的遺産）を、次代に繋げるべく力を尽くされた熱い思いを大切に編集してまいります。

会員増強を念頭に、会員が連絡し合える環境づくりをモットーに、メール連絡、ZOOM会議を中心に情報交換等を心がけ、デジタル化を図っている支部のご努力。また、記念式典当日のカメラマンを推薦してくださった支部の協力。こうしたご努力、ご支援に敬意を表すると共に感謝申し上げます。今後とも皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

心に残る記念事業に向けて

記念特別事業委員会  
委員長 草野一紀

新年おめでとうございます。

私どもの委員会では、会の将来の発展につながる70周年記念事業の実施を目指し、会の内外から協賛金を募る取組を進めてまいりました。外部の約80の関連団体に協賛の依頼状を発送しましたが、会員の皆様からも協賛金を募るといのは、異例の取組であり、驚かれた方も多かったと思います。取組の趣旨について、会員の皆様の理解が得られるよう、支部長の先生方にはたいへんご努力をいただきました。御礼を申し上げます。

集計はこれからになりますが集まった金額の多寡が問題ではなく、会員の心を一つにしてこの取組が、記念事業のみならず、これからの会の活動の活性化に繋がると考えています。皆様の善意である協賛金は大切に使用させていただきます。ご協力に深く感謝いたします。

(令和4年10月24日届出現在)

氏名	年月日	支部名	校種	年齢	名簿頁
井上 佳一	令4.7.2	八王子	小	95	43
赤木 正民	令4.6.24	神奈川	中	94	101
宮田 一孝	令4.6.17	西多摩	中	96	81
水野 文雄	令4.6.14	江戸川	小	77	41
八田 洋彌	令4.6.7	神奈川	小	88	107
小林 武	令4.5.20	神奈川	小	92	101
河原 俊夫	令4.5.1	埼玉	小	93	98
開沼 恒治	令4.3.30	八王子	中	92	42
市塚 正史	令4.3.16	八王子	中	90	47
西村 清	令4.2.2	葛飾	小	93	38
佐藤 光	令4.1.2	葛飾	小	77	39
渋谷 義一	令3.11.23	八王子	小	94	45
大澤 俊子	令3.9.3	調布	小	92	69
有馬 俊彦	令2.9.29	地方	小	95	110
中村 充孝	令4.7.5	世田谷	中	87	17
立石 昭人	令4.7.8	西多摩	小	91	74
千葉 康算	令4.7.10	千葉西	小	79	91
浅沼 くみ	令4.7.15	板橋	小	98	27
安部 正	令4.7.20	府中	小	87	68
蓮沼 孝雄	令4.7.24	八王子	小	90	47
上野美津枝	令4.7.26	日南	幼	82	52
揚石 久男	令4.7.26	千葉中	小	84	85
高野 恵一	令4.7.27	町田	中	89	70
石川 秀治	令4.7.31	神奈川	小	91	103
小室 詢	令4.8.7	足立	小	93	35
帖地 信行	令4.8.27	町田	中	98	49
志村 秀男	令4.8.29	西多摩	中	90	80
中村 唯一	令4.9.6	西多摩	小	96	72
木口 三男	令4.9.11	江戸川	中	85	42
佐藤 安正	令4.9.12	江	小	90	70
内田 泰敏	令4.9.21	埼玉	中	87	100
齋藤 隆平	令4.10.19	埼玉	小	87	98

### 物故者



謹んでご逝去を悼み  
ご冥福をお祈り申し上げます

氏名 年月日 支部名 校種 年齢 名簿頁

(福利厚生部長 増田 稔)

### 応募コーナー



#### 短歌

○朝の陽に髪光らせて子どもらが  
地面に映る影絵で遊ぶ  
○子どもらの映す影姿長くなり  
陽射し弱まり冬の気配満ち来る  
中野支部 田中弘志

#### 《短歌クラブのメダカ会からの寄稿》

○沿道に立ちて応援する人は  
宮の下では走者の名を呼ぶ  
○十五分歩いて足のむくみとれ  
健やかならむ叔母は百歳  
神奈川支部 立花徳子

○暴言に腹立ちたるが地を踏みて  
窓に息はき相手を見つむ  
○傘を打つ雨粒重し青山の  
いちよう並木の下にたたづむ  
武蔵野・三鷹支部 岩井昭

○正月に一族集まり宴をす  
立身出世は夢のままでも  
○開国の歴史を語る資料館  
幕末の志士セピアに染まる  
北支部 根岸美智子

○紙垂ゆれて震えおののき祈りしは  
立山雄山社殿は孤高  
○庭先のみかんの周り飛び交いし  
メジロの番ちつちつと鳴きて  
千葉西部支部 野村良子

#### 《西多摩支部短歌会からの寄稿》

○初詣零時を期して柏手を  
打つ音冴える人波を超え  
○出初式微動だにせぬ団員の  
頭ににびびく号令の声  
宇津木順一

○戸を練れば飛び込んでくるハゼの朱  
借景なれどああ清々し  
○固くかたく握りしめた拳より  
こぼれ死にゆくようなコロナ禍  
高橋和子  
○お茶の実が膨らむ頃を待ちわびて  
肥後守で作る篠鉄砲  
○木枯らしの吹いた翌朝秋川の  
川面を流る落葉いろいろ  
宮崎慶一

### 編集後記

明けましておめでとうございます。本会は『歴史的な新年』を迎えました。

ひとつに創立70周年を迎えることとです。その意義を多田会長が巻頭言で語っています。

もうひとつに、長びくコロナ禍にもめげず奮闘し続ける本会が新しい道を改めて一歩踏み出そうとする年なのです。本号所収の「来年こそ!」、「新たな道を探る」と語る支部だよりが印象的です。

おわりにお礼です。  
本号の編集作業真つ只中の十一月十五日の報道、「東京都の陽性者一万一千九十六人、二カ月ぶりの一人超えです。」に部員一同は驚きながらも粛々と作業を進めることができました。会員の皆様の執筆協力や激励があればこそです。ありがとうございます。

(梅津通郎)